Vo.16

和而不同

ややこしいのは、梅雨の気候だけではないようだ。湿度のムラや気温の上下は身体に堪（こた）える。世情の縺（もつ）れは心に堪える。こうした疲弊は《考える》ことを億劫（おっくう）にさせてしまう▼対人トラブルのひとつに、いわゆる《言った・言わない論争》がある。水掛け論・いたちごっこも言うが、互いが互いの主張（事実・または思い込みによる事実誤認）を譲らず、解決の糸口を見いだせない状況のことだ▼一度放った主張は、たとえ後から矛盾に気付いたとしてもそう易々と引っ込めることはできない。やはり面子は保ちたい。非を認めるのは、主張を貫くよりも相当難しい▼しかし、そうしたことを繰り返すに随（したが）い、いよいよ引き返せない所へ行きついてしまう。間違いを間違いと思えず、指摘に一切耳を貸さない。そうするしかない状況を作り出したのは紛れもなくその当人たちである。そのあおりを被るのは周りの人間だ。それに気づくことができないならば、これほど危険で残念なことはない▼話が通じないストレスも限度を超えるとあきれに転じてしまう。近年は、いわゆる《ごはん論法》のようなあえて答弁を複雑にするトリックが平然と公の場でなされている現実がある。話のすり替えに翻弄（ほんろう）され、いつの間にか根負けしていては思う壺だ。問うことをやめてはならない。

〔徳〕